



国際学部 国際地域学科
国際地域専攻

国際地域学科の今

2023年5月
学科長 藪長千乃

東洋大学

この資料では、国際地域学科の概略と学びの特徴について紹介します。



はじめに

- 多くの授業が対面で実施されています。
- 大学の授業は曜日によってスケジュールが大きく異なることがありますので、生活のリズムを学生自身が自己管理することを意識するようにお願いします。
- 国際地域学科では、全ての学生が、「ゼミ」に配属されています。
 - 新生：入門ゼミナール
 - 2年生：プロジェクトゼミナール
 - 3、4年生：専門ゼミナール
- 何かあれば、ゼミの先生に相談をするように促してください。学科の学生生活委員会や大学の教務課、学生相談室、健康・メンタルサポートなどでも相談を受け付けています。



授業風景、キャンパス内の様子

東洋大学

国際地域学科の学生は、東京都文京区にある白山キャンパスで授業を受けています。現在多くの授業が対面で行われています。一方、コロナ禍をきっかけとして、学生の主体的な学びを促し、教育上の効果が期待できるものについてはオンデマンド方式（動画コンテンツなどの配信を中心とした授業）やオンライン（ビデオ会議システムを用いた授業）方式の授業を導入しています。しかし、こうしたインターネットを利用した授業はあくまでも部分的なものです。学生の皆さんが「通学」を重視した生活リズムとなるよう、ご家族の方がたからも促していただければと思います。

高校から大学、オンラインから通学というように、生活の変化が大きいと、いろいろな問題が出てくるかもしれません。また、大学の授業スケジュールは曜日によって大きく異なるので、生活リズムがなかなか一定しないかもしれません。国際地域学科では、全ての学生が、少人数で構成する「ゼミナール」のクラスに配属されており、学生と教員が近い関係にあります。心配事などがあれば、ゼミの担当教員に相談をするように伝えてください。

また、教員には学生生活委員がいます。また職員は国際学部教務課が担当します。さらに、学生相談室ではメンタルサポートなどの面で専門性を持った職員が相談を受け付けています。

ご家族からの相談も受け付けておりますので、必要なときには大学までご連絡ください。



国際地域学科(RDS)の略史

1997年 板倉キャンパス(群馬県)に
国際地域学部 国際地域学科を開設(一学部一学科)

2001年 国際観光学科を開設、二学科の体制へ

東洋大学の国際化を
牽引してきた学科

2009年 白山第2キャンパスに移転

2010年 国際地域専攻と地域総合専攻の専攻体制へ

2013年 白山キャンパスに移転

2012年 文部科学省「グローバル人材育成推進事業」(学部の事業)に採択

2014年 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援タイプB」(全学の事業)

2017年 **国際学部** 国際地域学科へ

国際学部国際地域学科への再編時に、クォーター制の導入、学期中に海外に滞在し集中的に英語を学ぶプログラム、調査型の研修科目であるプロジェクトスタディーズの必修化などを行い、常に、東洋大学の国際化をけん引している。

東洋大学

次に国際地域学科の略史を紹介します。

国際地域学科は1997年に群馬県の板倉キャンパスに国際地域学部 国際地域学科として開設されました。

2009年に東京に移転し、2017年から国際学部国際地域学科に再編されました。学科は20年以上の歴史を持っています。

国際地域学科は、東洋大学の他の学部在先駆けてクォーター制と呼ばれる4学期制の導入、学生全員が必修で参加する海外での英語実習、留学や海外長期インターシップの推奨、様々な異文化交流プログラムを実施しており、東洋大学の国際化を牽引してきました。



学生数・教員数

- 国際地域専攻(昼) 887名
- 地域総合専攻(イブニング) 336名
- 留学生数 71名(国際地域学科全体)
(留学生出身国内訳)
中国、韓国、香港、ベトナム、
フィリピン、タイ、モンゴル、
コートジボワール、アルメニア、
マレーシア、ブルガリア
- 2023年度新入生(4月1日時点)
 - 国際地域専攻 223名
 - 地域総合専攻 82名
- 教員は27名
 - 白山キャンパスの中で、学生／教員比率は低い。
- 文系と理系の両方の教員がいます。
- 国内及び海外の様々な地域での経験が豊富です。
- 国際機関や国内公的機関、民間での実務経験がある教員もいます。
- 多くの教員が英語、その他の外国語に堪能です。

東洋大学

現在、国際地域学科では、イブニングコースも含め全学年あわせて、1200名ほどの学生が学んでいます。

国際地域専攻(昼間部)の学生の一割弱は留学生で、アジアをはじめとした諸外国から学生が来ています。

地域が抱える諸問題についての幅広い学びを提供するため、学科には文理両方の教員が在籍し、学際的な学びも可能にしています。

さらに、国際的な実務経験を持つ教員も多く、学修や研究だけでなく実践力の養成にも力を入れています。

グローバルな問題と地域における課題

グローバルな問題

貧困、食料、福祉、教育
ジェンダー、居住、資源
環境、防災、紛争



地域における課題

地域においてもそれぞれの状況に応じた様々な課題があり、そしてそれぞれの状況に応じた解決策が必要。

ここでは、国際地域学科が目指している教育理念について説明します。

国際地域学科では、様々な学問分野からあるいは様々な教育的なアプローチを用いて、地域の諸問題を理解しその解決に向けた実践方法について学びますが、私たちが生活する地域の課題は、SDGsで扱われるようなグローバルな問題と切り離せるものではないと考えています。

そこで、国際地域学科では、この両者をとらえることができる人材、すなわち

- ー地域づくりについて幅広い視点と知識をもち
- ー地域づくりのどのような場でも深く考え、解決に向けて主体的に行動できる人材の育成を目指しています。

国際地域学科(略称:RDS)で育成する能力

グローバルな視点から
国内外の諸課題の理解

幅広い視野と専門性から
「地域づくり」を構想

国内外の現場における
実践力

諸アクターとの協働と
コミュニケーション能力

- 政治、経済、社会、環境、文化を総合的に学ぶカリキュラム
- 現場での経験が豊富でさまざまな専門分野を有する多様な教員陣
- 地域課題をテーマとしてゼミナールや調査型研修、インターンシップやボランティアなどの現場学習の強化
- 実践的な英語コミュニケーション力の強化と海外での実践&第二外国語の習得

次に学科で育成する能力について具体的に説明します。

当学科が育成しようとしている「地域づくりの課題について幅広い視点から解決方法を示し主体的に行動できる人材」に必要な能力は、言うまでもなく「幅広い知識と現場での実践力」です。

より具体的にはこのスライドの赤字で示してあるようなものであると考えています。この赤字の能力育成のために、右側にあるカリキュラムや教員編成を行い、現場学習や外国語の実践などの機会を提供する学習プログラムを導入しています。

なお、スライドタイトルに併記しているRDSは、国際地域学科の略称です。国際地域学科の英語名称はDepartment of Regional Development Studiesです。略称として頻繁に「RDS」と記述したり呼んでいます。



RDSの特色(1) ～広範な学問領域を4つの専門領域に分類した体系的な学び

4
つ
の
領
域

国際関係・開発政策領域：

国際協力論、国際関係論、市民社会論、政治学、国際政治学、ミクロ・マクロ経済学、開発経済論、経済地理学、農村地域開発論など

比較文化領域：

文化人類学、開発と異文化理解、宗教と社会、ジェンダー論、比較芸術論、アジア・中東・米州・アフリカ地域研究、など

コミュニティ・地域政策領域：

地域社会学、コミュニティ開発、地方自治論、公共経営論、NGO・NPO論、社会保障論、社会政策論、まちづくり論、地域デザイン演習など

環境・情報・インフラ領域：

環境マネジメント、国際環境計画、国際インフラ論、国土計画・地域計画、都市計画、交通まちづくり、自然災害と防災、災害と復興、情報マネジメントなど

それぞれの専門性をもとに、行政や公的機関、企業、NGOなど、グローバルな視点をもって活躍する人財へ

東洋大学

ここから、国際地域学科RDSの特色について説明します。

第一の特色は、4つの専門領域に体系化した国際地域学科のカリキュラム編成です。

『地域づくり』を行うための幅広い知識の提供は、国際地域学科での教育の一つの軸となるものですが、これは、体系的な深い学びとは対極にあります。一方、卒業後社会で力を発揮する人材として一定の専門性を持つことも求められていると考えます。

そこで、国際地域学科では、学生の興味に応じた形での体系的な学びができるよう、広範な学問領域を4つの専門領域に分類し、カリキュラムを編成しています。また、カリキュラムマップを用意して、学問の難易度に応じて段階的に学修を進められるようにしています。

学生は、それに基づいて体系的な学びができるようにしています。



RDSの特色(2) ～「現場主義」のもと、研修・インターンシップなど現場体験・実務体験が充実

プロジェクト・スタディーズの必修化

フィールド調査、インターンシップ、ボランティアなど現場での実践



ゼミナールにおける研修

各ゼミの専門的な内容に関わるフィールド調査やプロジェクトワークの実施



東洋大学

第二の特色は、現場主義を重視した研修やインターンシップの充実です。

一方、現場での実践力を養うために、現地調査を含んだ研修であるプロジェクトスタディ科目を必修科目として設定しています。さらに、学生が所属するゼミナールでは、各ゼミを担当する教員の専門領域でのフィールド調査やプロジェクトワークを含む研修を行っています。



バンコク

ソウル

特色ある科目の一つとして、SFSを紹介します。

プロジェクトスタディ科目の一つ、「学生主導型フィールドスタディ」(Student-led Field Study: SFS)は、担当教員が引率する研修と異なり、教員の指導のもと、学生は少人数のグループを形成し、学生自身で調査を企画し、現地の大学や協力機関などと連携して調査を行います。これまで国内では石川県能登地方、茨城県県北地域、タイ(バンコク)や韓国(ソウル)などで実施してきました。



RDSの特色(3) ～実践的コミュニケーション能力、異文化理解能力の獲得

海外の大学での英語実習

1年次に、マレーシア、フィリピン、オーストラリア等での現地5週間＋事前事後研修の実践的な英語実習を実施

多彩な異文化理解プログラム

大使リレー講義や学生主体の国際ワークショップの開催など

英語で学ぶ専門科目

各教員が英語で専門科目を開講。一部のゼミは英語で実施。

海外での学習・研修

学生が在学中に一定期間の海外での経験・体験などの学習をすることを求めています。



東洋大学

国際地域学科第三の特色は、実践的なコミュニケーション能力、異文化能力獲得機会の提供です。

実践的コミュニケーション能力、異文化理解能力の獲得に向けて、一年次の学期中に行われる海外の大学での短期集中英語プログラム(ShIP)を皮切りに、多彩な異文化理解プログラム、英語で学ぶ専門科目、海外研修などを実施しています。

多彩な異文化理解プログラムの例(1) 短期英語集中プログラム(ShIP)@サンカルロス大学(フィリピン)



グループでのレッスン



バディ(サンカルロス大学の学生)とのレッスン

課題を与えられての
聞き取り
(サンカルロス大学内)



休み時間のバディとの交流

東洋大学

これは、短期英語集中プログラムのうち、フィリピンのサンカルロス大学で実施したものの様子です。

受け入れ大学では現地の英語インストラクターによる授業のほか、現地学生からバディやチューターを選抜し、本学学生が英語を話すパートナーとして会話の練習をしたり、学生の英語学習のサポートをします。

本学科のプログラムの特徴として、英語の学習だけでなく、プロジェクトベースラーニングProject Based Learning(PBL, 課題解決型学習)を取り入れ、現地では小グループになって調査やフィールドワークを行います。バディたちはPBLに同行し、学生たちをサポートします。

多彩な異文化理解プログラムの例(2) 在日大使によるリレー講義



- 2006年度: イギリス、パキスタン、エチオピア、グアテマラ
- 2007年度: オランダ、ザンビア、ブラジル
- 2008年度: フィリピン、ラオス、アルジェリア
- 2009年度: オーストラリア、タンザニア、バングラデシュ、カナダ
- 2010年度: チュニジア、インド、モロッコ
- 2011年度: タイ、アフガニスタン、アイランド
- 2012年度: アイスランド、パラグアイ、ウクライナ
- 2013年度: パキスタン、モルディブ、エチオピア
- 2014年度: ブルガリア、ハンガリー、ネパール
- 2015年度: スロバキア、ウズベキスタン
- 2016年度: フィンランド、ジブチ
- 2017年度: スペイン
- 2018年度: ドイツ、ノルウェー
- 2022年度: ウクライナ(全学プログラム)

2006年以来継続的に実施している在日大使によるリレー講義は、国際地域学科が実施してきた異文化理解プログラムのひとつです。

各国の大使から、その国の文化や今起きていること、日本との関係などを直接お話しいただいています。

学生にとって、知らなかった国を新たに知る機会、その国の新たな側面を見る機会となっています。

多彩な異文化理解プログラムの例(3)

- 学生による国際シンポジウム@東洋白山



- 2011年よりオーストラリアカーティン大学とのシンポジウムを実施しています。
- 日韓シンポジウムも行われています。

また、学生が主体となった国際シンポジウムも毎年行われています。オーストラリアや韓国など、海外の大学の学生と国際地域学科の学生が1つのテーマでフィールド調査などを行って、その結果を発表するというものです。

Toyo Global Leader(TGL)プログラム

入学時から全員が参加！

～グローバル人財になるための全学横断型プログラム～

(英語運用表現能力／価値創造能力／課題解決能力)



東洋大学

【認定要件】

- ①英語能力
- ②外国語による授業科目の修得
- ③外国語による論文等執筆
- ④海外留学・インターンシップ
- ⑤海外アクティビティ
- ⑥東洋グローバルリーダーキャンプ
- ⑦Toyo Global (TG)ポイント



⇒各要件を満たすことで世界を舞台に活躍できるグローバル人財に！

さらに、異文化促進、英語力の向上に向けてTGLプログラムという大学が用意したプログラムも活用しています。

TGLプログラムについては、下記をご覧ください。

<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/intledpg/tgl/>

(または、検索エンジンから「東洋大学」「TGL」で検索してください。)

海外への留学(長期留学、短期留学)

- 長期留学(2018年度:59名、2019年度:31名)

- 米国の協定校へ交換留学を行う場合のスケジュール例

	1年		2年		3年		4年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
Case A (2年次に出発)		↑ 申込		留学中			就活・卒論	
Case B (3年次に出発)				↑ 申込		留学中	就活・卒論	

- 申込の時点で一定以上の英語能力が必要です。
 - 計画的な語学学習および留学準備を進めていってください。
 - 語学の成績によって得られる奨学金の額が異なります。
- 短期の海外留学はほぼ全ての学生が経験

国際地域学科では、毎年多くの学生が半年から1年間の留学を経験しています。交換留学のような長期留学だけでなく、夏休みや春休みなどの長期休暇中に実施される短期の留学や語学研修も、大学全体のプログラムとして数多く用意されています。留学は語学力だけでなく様々な人間力も高める貴重な機会となっています。是非、短期でも構いませんので、留学に挑戦しようとする学生を支援してください。

大学全体の留学情報、留学支援プログラムについては、こちらをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>

さらに、国際学部国際地域学科の学生のみを対象として、オーストリア、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、インドネシア等の大学と協定を結んで交換留学制度を実施しています。

交換留学の申し込みは派遣の約1年前に行われます。留学を希望する場合には、費用を含めて計画的な準備が必要です。



海外留学や海外研修にかかる各種奨学金

海外留学や海外研修には様々な奨学金のサポート有。

- 東洋大学海外留学促進奨学金
- 交換留学奨学金
- 認定留学奨学金
- 協定校語学留学奨学金

交換留学の派遣や奨学金には成績や語学基準があるため、成績・語学スコアを良くしておくことが重要です。

◆ 語学基準 参加プログラムの学修言語のみ出願可能 (※ フランス語研修に参加→英語での出願は不可)

語学基準	TOEIC/TOEIC (IP)	TOEFL ITP	TOEFL iBT	IELTS	中国語 (HSK)	中国語 検定試験	韓国語 検定試験 (TOPIK)	ポルトガル語 検定試験	フランス語 検定試験 (DELF)
C2	-	-	-	8.5-9	5級-	1級	6級	1級	500-
C1	945-990	637-677	110-120	7.5-8	4級	準1級	5級	2級	400-499
B2-2	805-840	602-636	99-109	7	-	-	-	-	-
B2-1	790-800	547-601	87-90	6.5	3級	2級	4級	準2級	300-399
B1-2	670-705	526-566	73-86	5.5-6	-	-	-	-	-
B1-1	650-665	485-525	57-71	5	2級	3級	3級/2級	3級	200-299
A2-2b	500-545	470-484	52-56	4.5	1級	4級	1級	4級	100-199
A2-2a	400-495	459-469	-	4	-	-	-	-	-

語学基準	フランス語 検定試験 (DELF)	韓国語 検定試験 (TOPIK)	ポルトガル語 検定試験	ドイツ語 検定試験	スペイン語 検定	スペイン語 検定試験	イタリア語 検定	イタリア語 検定	イタリア語 検定
C2	DAF C1 1級	C1	C1	1級	DELE C1 1級	1級	1級	Tru-C1	C1
C1	DELF B2 準1級	B2	準1級	DELE B2 準1級	DELE B2 2級	2級	2級	Due-B2	B2
B2-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B2-1	DELF B1 2級	B1	B1	2級	DELE B1 3級	準2級	準2級	Uro-B1	B1
B1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B1-1	DELF A2 準2級-3級	A2	A2	3級	DELE A2 4級	3級	3級	A2	A2
A2-2b	DELF A1 4級	A1	A1	4級	DELE A1 5級	4級	4級	A1	A1
A2-2a	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※本表に掲載のない外国語については都度、本表に準じて国際教育センター選考委員会が判定する。
 ※本表の語学基準は CEFR (Common European Framework of Reference for Languages : ヨーロッパ言語共通参照枠) をもとに作成した。

◆ 奨給額 (単位円)

語学基準	チャレンジ型	アクティブ型	グローバルリーダー型	トップ大体型
C2	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
C1	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
B2-2	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
B2-1	300,000	500,000	1,200,000	
B1-2	220,000	420,000		
B1-1	120,000	350,000		
A2-2b	70,000	250,000		
A2-2a	70,000			

※「グローバルリーダー型」「トップ大体型」については、留学期間が1学期間の場合は、奨給額は上記金額の半額となる。

東洋大学

これまでスライドで示した様々な活動のうち、海外での活動に対して、東洋大学では充実した奨学金を準備しています。

しかし、交換留学の派遣や奨学金には成績や語学基準があるため、成績・語学スコアを良くしておくことが重要です。



4年間の流れ

1年春学期:	ガイダンスなどや少人数の入門ゼミナール(平均20人)
1年次秋学期:	Short Intensive Program (ShIP、海外短期集中英語研修プログラム)による異文化下における英語学習や教員の研究を知り専門的な思考へのアプローチの開始。
2年次～:	専門的な学びや実践的な活動(プロジェクトスタディーズやインターンシップ)、海外留学などが本格化。 秋学期には専門ゼミへの配属。
3～4年次:	専門的な学びと実践的な活動、海外留学など。 少人数の専門ゼミナール(平均10名) 卒業論文作成に向けて、フィールド調査を含めて研究を行う。ゼミにより夏合宿やゼミ研修がある場合もあります。
3年次冬～4年次春:	就職活動や大学院進学など卒業後の進路を決める
4年次:	卒業論文執筆に向けた研究活動の本格化。
4年冬:	卒業論文完成・提出・発表、卒業へ!

東洋大学

このスライドは、2023年入学の学生を例に4年間の流れを示したものです。
学生にとって4年間はあっという間に過ぎていくようです。

留学や研修プログラムへの参加など、学生が計画を持って4年間を送ることができる
には、ご家族の皆さまのご理解と支援が非常に重要です。ご協力くださいますようお願いいたします。

就職内定率と原級(留年)者数

学部／学科	内定率		
	2022年 3月卒業	2021年 3月卒業	2020年 3月卒業
国際学部	96.6%	96.1%	98.4%
国際地域学科	98.8	96.9	98.8
東洋大学全体	97.0	97.6	98.2
文学部	94.5	97.5	97.7
法学部	96.1	98.4	98.9
経済学部	97.4	97.5	97.6
経営学部	97.8	98.6	98.6
社会学部	96.6	97.9	98.4

	3月卒業 (年度)				
	2018	2019	2020	2021	2022
卒業判定対象者数	314	110	335	384	340
卒業生数	269	92	299	351	308
卒業率	85.7%	83.6%	89.3%	91.4%	90.6%
原級者数	45	18	36	33	32
原級率	14.3%	16.4%	10.7%	8.6%	9.4%

	9月卒 (年度)				
	2018	2019	2020	2021	2022
卒業判定対象者数	34	18	-	43	41
卒業生数	14	6	-	23	20
卒業率	41.2%	33.3%	-	53.5%	48.8%
原級者数	20	12	-	20	21
原級率	58.8%	66.7%	-	46.5%	51.2%

※2019年度までは国際地域学部国際地域学科の卒業生数、

2020年度以降は国際学部国際地域学科の卒業生数を基に算出。

※2020年度9月卒については、国際地域学部国際地域学科の卒業生を基に算出。

東洋大学

左の表は就職内定率を示したものです。

現在のところ就職を希望する学生のほとんどは就職しており、就職率も他学部と比べて変わらない状況だといえます。

国際地域学科は、幅広い学びができる一方で専門性が低いのではないかという点を心配される声を聞くことがありますが、就職状況を見る限り、国際地域学科の学びが就職に不利ということはありません。

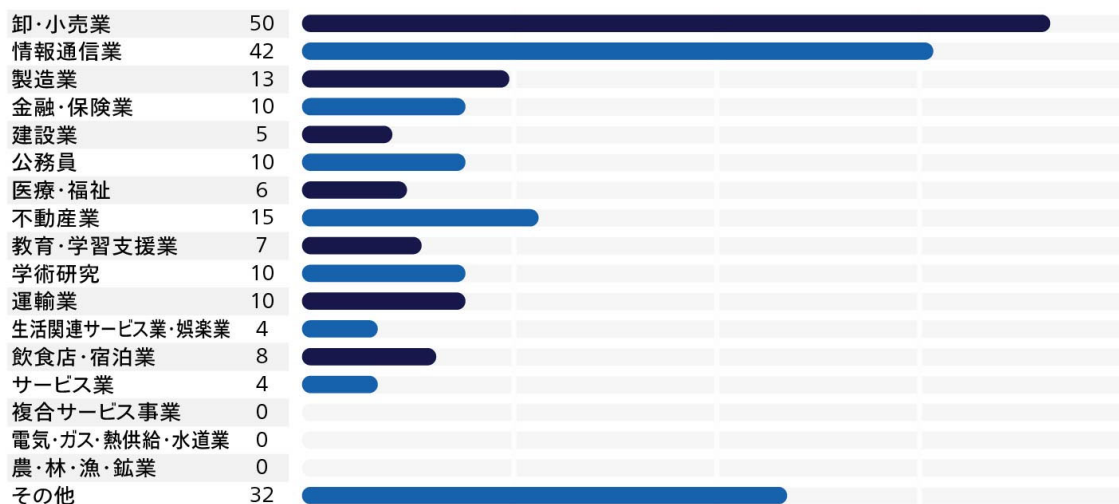
右の表は、原級者、つまり4年で卒業できなかった学生数とその割合です。毎年約10～15%の学生が4年を超えて在籍しています。この中には、海外に出ているなどで自ら卒業を伸ばした学生も含まれますが、それでも一定数の学生が単位不足で卒業ができていないというのも事実です。

単位の取得状況などは、各学期に成績表をお送りしていますのでご確認ください。

主な就職先(国際学部)

国際学部 業種別進路状況 卒業生就職状況データ(第1部のみ)

単位:人



主な就職先

(株)京葉銀行、楽天グループ(株)、Infosys Limited、リコージャパン(株)、川崎市役所(株)、NTTドコモ、アマゾンジャパン(同)、ソフトバンク(株)、大成建設(株)、国土交通省 東京航空局

東洋大学

また、国際学部卒業生(2022年3月卒業)の主な就職先には、商社などの卸・小売業に次いで、情報通信業に就職する学生が多くなっています。情報通信業への就職者にはシステムエンジニアとして就職する学生もいます。



最後に学生の学外での活動の様子をまとめた写真をご紹介します。
 これらの写真は、ゼミ研修やSFSと呼ばれる学生主体のフィールド調査の様子ですが、
 どの写真からも学生の充実した姿がうかがえると思います。



奄美大島での地域活性化を考える研修

いわきでのボランティア実習

各国でのコミュニティ調査

イタリア研修
(カメリーノ大学、理工学部、
国際観光学部と連携)

ほかにも、自治体などと協力した地域活性化を考える研修やボランティア活動なども行っていますし、海外の大学や東洋大学のほかの学部の学生と連携した研修プログラムがあります。

- コロナ禍では多くの授業や国際地域学科特有の活動が対面での実施を行えない状況でした。
- そういった中でも、少しでも学生の皆さんが、学生同士のつながり、地域とのつながり、海外とのつながりが持てるよう、最新のオンラインシステムを活用した授業や活動を行ってきました。

学科のホームページをご覧ください



The screenshot shows the website for the International Area Studies Department at Toyo University. The page is titled 'オンライン・ハイブリッドを活用した教育活動' (Education Activities Utilizing Online and Hybrid Learning). It lists various activities such as 'International Finance/International Businessに関するGoa Institute of Managementと東洋大学のオンライン協働プロジェクト' and 'UMAP相互履修協力のもとでのマレーシアとフィリピンの大学とのオンライン共同授業'.

最後に、コロナ禍では、海外を含めた現地でフィールドワークを行うことが制限されました。現場主義を一つの理念として掲げる学科としては、大きな影響があったことは否めません。しかし、少しでも学生の皆さんが、学生同士のつながり、地域とのつながり、海外とのつながりが持てるよう、最新のオンラインシステムを活用した授業や活動を展開してきました。

取り組みの一部を学科のホームページにまとめてありますので、ぜひご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/grs/rdsc/feature/>

東洋大学優秀教育活動賞

2019年度の教育活動に対し、7組16名の先生方が優秀教育活動賞を受賞されました。

所属	氏名(敬称略)	授賞名・教育プログラム名
経済学部 経済学科	安田 武彦	「ゼミナールⅢA」 「現代中小企業を様々な視点から探る」
経済学部 国際経済学科	藤井 信幸	「ゼミナールⅡ～Ⅳ」 「社会人基礎力」を育むための地域貢献活動の試み
法学部 法律学科	安藤 和宏	「専門演習ⅠA/B」 「専門演習ⅡA/B」
生命科学部 生命科学科	江口 智子	「Integral English I/II (ADVANCED b)」における 文学作品を活用した主体性を促す英語教育
国際学部 国際観光学部 国際観光学科	志摩 憲寿 国際学部国際観光学科 松本 紀彦 理工学部建築学科 佐野 浩祐 国際学部国際観光学科	国際地域学研修(国際学部) 観光調査実習Ⅰ・Ⅱ(国際観光学部) 海外研修Ⅰ(理工学部) 一学部を横断した連携による国内外のフィールド研修プログラムの実施
国際学部 国際観光学部 理工学部	神山 藍 理工学部国際観光デザイン学科 柏崎 梢 国際学部国際観光学科 新田 将之 理工学部国際観光デザイン学科 久松 佳彰 国際学部国際観光学科 松丸 亮 国際学部国際観光学科	
国際観光学部 国際観光学科	泰田 伊知朗 ボグダンルフ ローレンツ 市田 セツ子	授業「日本語ⅡA,B」「文化遺産地域振興論」、 教育プログラム「日本人学生による留学生チューター制度」

2020年度の教育活動に対し、7組17名の先生方が優秀教育活動賞を受賞されました。

所属	氏名(敬称略)	授賞名・教育プログラム名
経済学部 経済学科	安田 武彦	「ゼミナールⅢA」 「現代中小企業を様々な視点から探る」
理工学部 建築学科	香取 慶一	「建築材料Ⅰ」「建築の形態とちからⅠ」 「2020年度春学期 オンライン授業」
国際学部 国際地域学科	安 相景 北脇 秀敏 中村 香子 沼尾 波子 久松 佳彰 柏崎 梢 佐藤 郁 ロバート ヒューズ ニコール ギャラガー 芦沢 真五 松丸 亮	「海外英語実習Ⅰ」 「海外英語実習Ⅱ」 「海外英語実習Ⅲ」
生命科学部 応用生物科学科	角野 立夫	「公衆衛生総論」 「一国家資格・公衆衛生管理者試験に向けた取り組み」
ライフデザイン学部 生活支援学科	南野 奈津子	「国際児童福祉」
ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	樋口 貴彦	「CAD演習Ⅱ」 「誰も取り残さない対面演習への速やかな移行に対する 取り組み」
総合情報学部 総合情報学科	小松 昭吾	コロナ禍における実践的な心理学教育と公認心理師資格取得の補習教育
食環境科学部 健康栄養学科	大瀬良 知子	「応用栄養学Ⅰ」 「応用栄養学Ⅱ」

2021年度の教育活動に対し、16組・37名の先生方が優秀教育活動賞を受賞されました。

所属	氏名(敬称略)	授賞名・教育プログラム名
文学部 哲学科	河本 英夫	「哲学と科学A」
文学部 英米文学科	古田 直幸	「英語学演習Ⅲ A/B」
文学部 史学科	高橋 圭	「歴史学入門」
国際学部 国際地域学科	坪田 建明 中村 香子	学部講義における、オンラインを活用した海外 大学等との共同授業 「International Finance」「Participatory Development」
生命科学部 生命科学科	長谷川 輝明	「危険物管理概論」
生命科学部 応用生物科学科	李 沁潼	「基礎生物学演習」
ライフデザイン学部 生活支援学科	嶋崎 博嗣	「保育内容の指導法(健康)」
総合情報学部 総合情報学科	范 自然	総合情報学部SGUグループ運営事業および学部グ ローバル化推進事業
食環境科学部 健康栄養学科	宮越 雄一	「解剖生理学」「解剖生理学実験」

なお、これまで紹介してきた国際地域学科の取り組みは、本学の優秀教育活動賞を受賞しています。

2019年度

国際学部、国際観光学部、理工学部合同

一学部を横断した連携による国内外のフィールド研修プログラムの実施

科目名: 国際地域学研修

国際学部国際地域学科 准教授 志摩 憲寿、同助教 柏崎 梢、同教授 久松 佳彰、
同教授 松丸 亮

2020年度

「海外英語実習Ⅰ」、「海外英語実習Ⅱ」、「海外英語実習Ⅲ」(現: 短期英語集中プログラムShIP)

国際学部国際地域学科 安 相景、北脇 秀敏、中村 香子、沼尾 波子、久松 佳彰、柏崎 梢、佐藤 郁、ロバートヒューズ、ニコール ギャラガー、芦沢 真五、松丸 亮

2021年度

一学部講義における、オンラインを活用した海外大学等との共同授業

科目名: International Finance, Participatory Development

国際学部国際地域学科教授 坪田 建明、中村 香子



ありがとうございました



東洋大学国際学部国際地域学科

学科長 藪長千乃(やぶなが ちの)
yabunaga@toyo.jp

東洋大学

ご質問等がありましたら、どうぞご連絡ください。